

大飯原発事故時の避難計画に実効性なし

2017.10.4 美浜の会

- おおい町住民の5つの避難経路は全て、京都府・滋賀県民の経路と一部で重複
町は滋賀県民の経路と重なっていることも知らず。 計画段階から大渋滞は明らか

大飯原発から約30km圏内には、福井県・京都府・滋賀県の約16万人が暮らしている。半数以上が関西住民だ。図と表で示しているように、避難経路は重複している。計画段階から渋滞は



おおい町住民避難計画、7月20日住民説明会の内閣府資料等より 作成：美浜の会

目に見えている。

おおい町は、滋賀県民の経路③が、町民の経路と重複しているのを8月17日の申し入れで初めて知ったという。一体どうやって計画を立てているのか。

他方で、町や国は「段階的避難」のため、まず福井県民が避難すると公言している。

①の経路（舞若ルート） 舞鶴若狭自動車道→中国自動車道→兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・おおい町名田庄地区以外の町民約6,000名が使用 ・舞鶴市民約8万人、綾部市民約1,600人等の経路と重複
②の経路（美山ルート） 国道162→府道12→国道27→国道173→兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・おおい町名田庄地区約2,500名が使用 ・南丹市美山町住民の避難経路と重複
③の経路（滋賀ルート） 国道303→国道161→兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・若狭町約1万5千人の県外避難の正式ルート ・おおい町民の県外避難の代替経路 ・滋賀県高島市今津地区住民の避難経路と重複
④の経路（県道・府道1号ルート。7月20日内閣府資料） 県道・府道1→国道27→国道173→兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・おおい町大島地区（PAZ）約740名の県外避難の代替経路 ・7月20日の住民説明会で内閣府が初めて示した経路 ・綾部市奥上林・中上林地区の約1,500名の経路と重複 ・スクリーニング場所は放射能放出前避難のため設定しない（おおい町）
⑤の経路（県内避難ルート） 国道303→国道161→国道8→敦賀市等	<ul style="list-style-type: none"> ・おおい町民等の県内避難の代替経路 ・高島市今津町住民の経路と重複

- 避難道路は狭く、雪深い冬、洪水・土砂災害で経路は途絶、孤立した地域もある

避難道路の重複に加え、道路そのものが狭く、避難が困難な地域が多い。山間の集落は、冬は降雪で自治体の除雪も間に合わず、洪水や土砂災害危険区域も多くあり、孤立した地区もあった。

私たちは、滋賀県高島市旧朽木村の県道 783 号線を視察した。針畑川沿いの緑に囲まれた道だが、対面通行の非常に狭い道で、くねった道のガードレールは車が接触してポコポコになっていた。「山間の集落は、国道までの経路が長く狭隘であり、避難経路途絶のおそれ大」と滋賀県も指摘している（2016 年 10 月 19 日滋賀県原子力防災専門会議 資料 1）。

滋賀県高島市今津町でも、国道 303 号に出るための各地区の道は狭く、冬場は雪が多く、土砂災害危険区域も多い。数年前の洪水で孤立し、透析の必要な人もあり大変だったとのこと。

滋賀県は、孤立した場合にヘリでの救助を検討しているが、福祉施設関係者を含め約千名をヘリに乗せるため、何台のヘリと時間がかかるのか。ほとんど不可能だ。

● スクリーニング場所は狭すぎる。30km 圏内でも実施予定

おおい町は、8 月 17 日の申し入れで、避難経路ごとのスクリーニングを回答した（前頁の図）。「滋賀ルート」の場合、2 か所（若狭町上中庁舎・道の駅若狭熊川宿）をあげたが、両方とも 30km 圏内に入り込んでおり、スクリーニングしてもまた汚染される可能性が高い。

「道の駅熊川宿」の駐車場はとても狭く、施設紹介資料では「31 台（大型車 9 台/大型バス 1 台/普通車 21 台）」となっている。こんなに狭い場所でスクリーニングできるのかと問われると「ゲートモニターを何レーンか作って・・・」と無理を承知の苦しい回答だった。

「美山ルート」では南丹市の美山長谷運動広場を使用する。広場への入り口はとても狭く、中に入るまでに大渋滞となる。おおい町は、ここは「名田庄地区の 2,500 名のスクリーニング場所」と述べた。しかし、内閣府が 2015 年に南丹市等に示した「関係者限り」と記された資料では、「総流入予測台数：426 台」となっており、到底足りない。

内閣府のこの資料について、おおい町は説明を受けていないとのことだった。町は「関係者限り」から除外されているのか。内閣府主導で、当の関係者に知らせず・知らずで、形だけの計画が作られている。（綾部 P A については、避難計画を案ずる関西連絡会の「防災訓練監視パンフ」参照）

● 高齢者が多く、要援護者の避難は困難を極める

滋賀県には、大飯原発から 30km 圏内に約千名が暮らしている。山間の今津町と旧朽木村の一部が該当する。14 頁の「訪問記」にあるように、高齢者が多く「限界集落」に近づいている地区もある。体の不自由な独居老人や、老々介護の家庭もあった。地区の「一次避難集合場所」まで徒歩で集合することになっているが、地区内は広く、高齢者にはとても無理な話だ。計画は出だしから成り立たない。

さらに、今津町には高齢者・障がい者の大きな社会福祉施設が 2 か所ある。角川ビラ（入所者約 200 名）、椽生の里（約 160 名）、両施設の職員を含めて約 440 名が生活している。今津町の避難住民約 200 名の 2 倍を超える施設関係者の避難は可能なのか。滋賀県は「（施設の本部）大阪自彊館の中で避難先の施設は確保されている。避難手段は基本的に施設所有のマイクロバスや公用車」と私たちに回答しているが、具体的な内容を示すべきだ。

● 安定ヨウ素剤の事前配布は 5 km 圏内のみ

南丹市議会では、事前配布に向けた意見書が採択され、住民・議員の取り組みが進んでいる。他の福井・京都の市町では、避難集合場所等に備蓄しているだけ。滋賀県は 40km 圏の幼稚園等にも備蓄しているが、配布・服用は大津市等遠方から職員が来てからだ。早期服用には程遠い。

（美浜の会ニュース 148 号記事に加筆）